NEWSchool 第２号 (H29.9.5 発行)

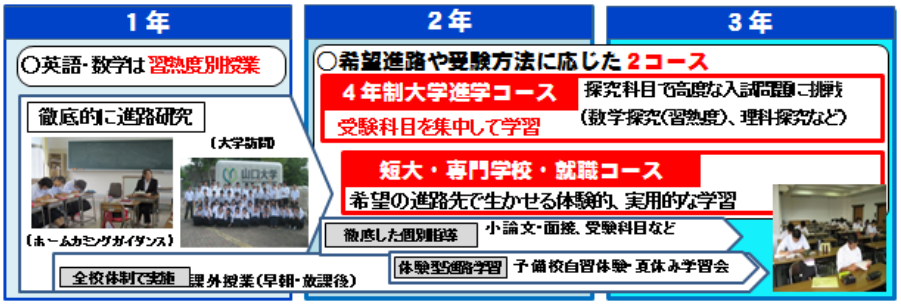
下関北高校通信

平成 29 年 11 月設置
平成 30 年４月開校
山口県立響高等学校
山口県立豊北高等学校

山口県立響高等学校と豊北高等学校は再編統合し、平成 30 年４月に、現在の豊北高校の校地に新たに山口県立下関北高等学校が開校します。来年４月の入学生は、新高校の１期生となります。
この学校通信“NEWSchool”では、新高校の情報を随時紹介してまいります。
第２号では、新高校の学習内容“学びの地図”について紹介します。

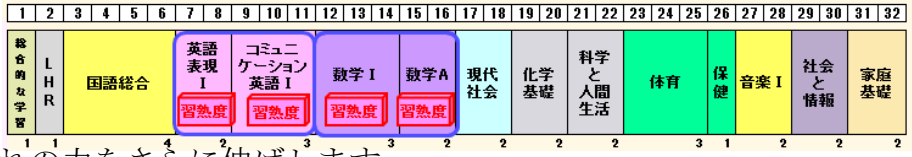
特色１　２つのコースを設置し、生徒の進路希望に応えます！

○１年の「総合的な学習の時間」やＬＨＲの時間で徹底的に進路研究を行い、２・３年では、**希望進路や受験方法に応じて、２つのコースでクラスを編成**します。



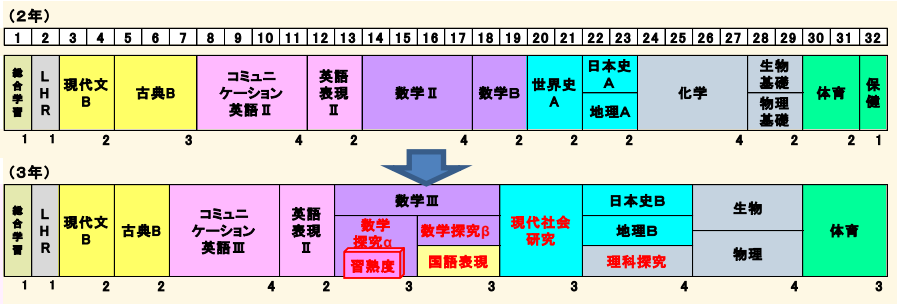
＜１年次の学習内容＞

○全クラス共通の科目を学習しますが、学力の幅が広い英語・数学では、一人ひとりにあった内容・方法（**習熟度別クラス**）で、それぞれの力をさらに伸ばします。



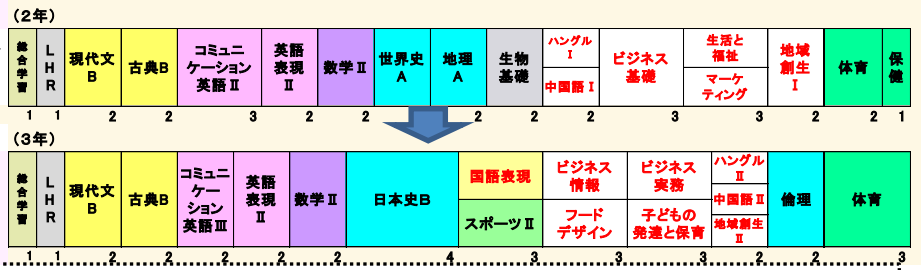
＜４年制大学進学をめざすコース＞

○**受験科目を集中して効率よく学習**します。
○３年では、数学・理科・現代社会などの「探究」科目で、**高度な入試問題にチャレンジ**するとともに、現中学３年生から変わる新しい大学入試制度に対応した学習を行います。



＜短期大学・専門学校への進学や就職をめざすコース＞

○希望進路に応じて、ビジネスや福祉・保育などの授業を選択して、希望の進路先で生かせる**実用的・体験的な学習**を行います。
○授業で身に付けた資格や経験を進路実現に生かします。



[ビジネス基礎]　ビジネスマナー、電話・来客応対、ビジネス計算の基礎
[ビジネス実務] オフィス実務、ビジネスと珠算、ビジネス英語
[マーケティング] 市場調査、販売計画・仕入計画、価格の決定・販売促進
[ビジネス情報] オフィス業務と情報通信ネットワーク、表計算ソフトウェアの活用
[生活と福祉]　高齢者の生活援助の実習、介護の実習、レクリエーションの実習
[フードデザイン] 健康と食生活、フードデザイン実習、食育と食育推進活動
[子どもの発達と保育]子どもの生活、子どもの保育、子どもの福祉と子育て支援

山口新聞 (5/11)

特色2 地域と協働した活動により、社会的・職業的な自立を促し、豊かな心を育みます！！

－地域で学ぶ、地域を守る、地域を創る－

○地域に関する学習を授業※に位置づけるとともに、地域と連携した取組を、部活動をはじめ学校の様々な活動を通して実施します。**－自分の住んでいる地域に立って、自分の将来をみつめる－**

○これらの活動を通して培った**“地域への愛着と誇り”**を地域の課題に正面から向き合い、その解決に向けて取り組もうとする、**“高い志”**へと育てます。

野球部員 梨の箱詰め

豊北高 社会学習の一環で手伝い

梨をかごに入れる野球部員

特産の梨の収穫シーズンを迎えた下関市豊北町で12日、県立豊北高の野球部員が豊北梨選果場を訪れ、梨の箱詰めなどを手伝った。同校の生徒は昨夏から、社会学習の一環で同選果場で手伝い始めた。この日は、同部員と女子マネジャーの計27人が練習後に参加。豊北梨生産組合の組合員から教わりながら、コンベヤーで運ばれる特産の「幸水」を大きさで選別して、かごや段ボール箱に入れた。

中塚颯人主将(16)は「練習で培った体力が、お役に立てればうれしい」と笑顔で作業していた。

同組合の河田征四郎組合長(72)は「若手が少なく、人手が足りないのでとても助かる」と感謝。「今年は晴天に恵まれ、大きくて甘い梨がたくさんできた」と話した。

読売新聞(8/13)

学校独自の授業 地域創生（仮称）

ねらい：地域との関わりを通して、地域と自分自身の未来を創造

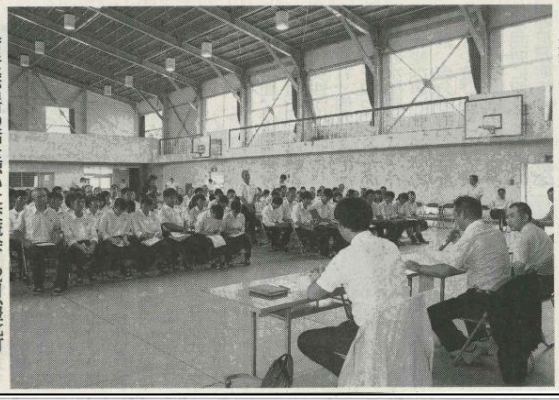
内　容：県や市の職員、商工会など地域の方から、魅力や課題、施策をリレートーク
グループで地域に出て（フィールドワーク）、調べたり、アイデアを提案したり、Webページなどで広く紹介したりするなど、体験的な活動を実施

一足お先に・・
-新高校つまみ食い-

※新高校で実施する学習のうち、実施が可能なものは、今年度から先行実施しています。

地域や自身の未来考える

豊北高生と若手経営者が交流



若手経営者の話を聴いた交流会＝12日、豊北町

豊北町滝部の豊北高校（竹村和之校長、141人）で12日、同町に縁がある若手経営者との交流会が開かれ、全校生徒や地域住民ら約170人が参加した。地域の現状を理解し、地域や生徒自身の未来を考えてもらおうと市商工会青年部豊北町支部（井上直行支部長、21人）が初めて開いた。

「若手経営者の現状とこれからの課題」をテーマに、井上支部長(37)ら土木建設、印刷、電気工業、建設コンサルタントの4人がパネリストを務めた。

「地域に育ててもらった気持ちがあり、恩返しをしたい」などと地元に事業所を置く理由を説明。「出会いと経験を大切にしてほしい」「ごめんなさい、ありがとうという言葉で人間関係が円滑に進む。感謝の心を持つことで世界が変わることを心にとどめて」とアドバイスした。生徒からは「活性化のために何が大切か」との質問も出た。

3年の松尾龍介さん(17)は「大学に進学しそのまま都会に出ようと思っていたが、話を聞いて豊北町に戻ることも考えようと思った。地元で起業して雇用を生むことを繰り返せば過疎化の解決策になるかもしれない」、井上支部長は「地元の企業を知ってもらい、就職する時の選択肢の一つにしてほしい。交流会がそのきっかけになれば」と話した。

山口新聞(7/13)

※交流会でお話を伺った若手経営者の方々が、夏祭りなど、地域を盛り上げるために頑張っておられる姿に直接ふれ、協力することを通して、生徒たちは、教室での学びを実際の社会生活につなげるとともに、地域に貢献するということを実体験したようです。

卒業生と現役 地元の町歩き

豊北高 統合前に魅力再発見

集落の入り口に置かれた庚申塚（こうしんづか）について、藤原恵洋教授（右から2人目）らの説明に耳を傾ける生徒やOBら＝下関市豊浦町川棚

県立豊北高校（下関市）の卒業生有志が、後輩たちと一緒に地元の街を歩くイベントを開催した。同校は来年度に県立響高校（同）と統合し、下関北高校になる予定。新たな出発を前に、地元の魅力を再発見してもらいたくて企画した。

「ここは、お相撲さんが始めた旅館なんです」

20日、市内の川棚温泉周辺での町歩き企画。案内役の藤原恵洋・九州大学大学院教授（建築史）が、訪問先の一つ、玉椿旅館で歴史を語り始めた。湯治向け宿が主流だった1923年、元力士・玉椿関が地元の川棚で開業した観光旅館だ。建物は国登録有形文化財になっている。

旅館の由来を聞く／古地図と見比べる

参加者約30人のうち8人は両校の生徒。自ら参加申し込みをしたものの、親世代よりうんと年上の先輩たちとの町歩きに、緊張した様子だった。だが、年の近い旅館の若女将、藤井優子さん(31)が話し出すと、表情が明るくなった。大学進学を機に福岡市に住んでいたが、家業を継ぐため今春戻ってきたこと、宴会向けの大広間はいま、イベントスペースとして活用していること――。身を乗り出して聴き入った。

豊北高3年の藤井博香さん(17)は川棚出身だが、玉椿旅館のことは知らなかった。「地元はよく知っているつもりで、東京のような刺激のある場所にあこがれていた。でも、こんなすごい場所や、地元で頑張っている人がいたなんて」

この日は寛保2（1742）年に作られた古地図を手に、萩藩主が領地を回る際に通った道や、集落の入り口に置かれた庚申塚などもたどり、現在の町並みと見比べた。藤原教授は「生徒たちの足元にこれだけの宝があると、気づきを促すことができたのでは。先輩とまた交流して、まちづくりに生かしてほしい」。

企画した豊北高校の卒業生有志でつくる「北高夢ロード実行委員会」の岡崎新太郎会長(71)は「大人の企画に生徒が出てきてくれたこと自体がうれしい」と喜んだ。「今回の町歩きが、新しくできる下関北高校や地域などの協働プロジェクトの契機になればいい」（山田菜の花）

朝日新聞(8/25)